



AA日本ニュースレター

No.211

■「第1回AA日本東日本圏ゼネラルサービスフォーラム」が開催されました。

東日本圏選出B類常任理事 長澤

2022年10月29日(土)30日(日)に「第1回東日本圏ゼネラルサービスフォーラム」が開催されました。このフォーラムは第25回評議会で開催が決まり、前年には西日本圏(関西・中四国・九州沖縄地域)からフルオンラインで開催されました。今回は現地札幌の会場と全国をオンラインで結び会場でもオンラインでもメンバーが話し聞くことができる方式(ハイブリッドと呼んでいます)での開催となりました。

なお、このフォーラムを含め後述の「第27回ワールドサービス・ミーティング」や「日本のAAを振り返るフォーラム&振り返りミーティング」は、AAメンバーだけが参加するイベントです。関係者の皆さまには紙面を通し日頃のAA活動をお知りいただければと思います。

北海道・東北・中部北陸の各地域からなる東日本圏は、近年サービスメンバーの減少が言われており、特に北海道・東北は評議員の選出もままならない状態が続いています。北海道地域が2021年11月の集会で当フォーラムのホスト地域として立候補することが決定した時には、多くのメンバーが驚きと共に将来への期待を抱いたと思います。私自身、北海道が活動の場でありながら、今回の立候補とその後のサービス活動には感心することばかりでした。

今回の開催が「ハイブリッド」で行われること、これが常任理事会のイベントとしては初めての試みとなることが地域に知らされ、経験の少ないメンバーばかりで本当に上手くいくのだろうか、プログラムは、申し込みは、スピーカーは、関わった委員たちでさえ不安を感じるがあったらと思う。聞きなれない「バーチャルロビー」「ラウンドテーブル」等の用語も一層不安を掻き立てました。

そういういろいろな不安や質問にも、各理事やリーダーシップを取る委員たちが丁寧に答え払拭していったことは、実行委員会メンバーが、最後まで笑顔でいられたことにつながっているのだろうと思います。「楽しんでやること」これがこのフォーラムを開催していく上で、何度も聞かれたスローガンでした。

第1回の全体実行委員会は5月に開催しました。東日本圏の評議員を中心にホストとなる北海道地域のメンバー、東北と中部北陸のメンバー、そして常任理事会とテクノロジー委員会からオンライン系に強いメンバーが参加しての会議となりました。フォーラムのテーマは第28回評議会に向けたテーマと同じ「デジタルの時代にAAのメッセージを運ぶ」に決定し、そのテーマにふさわしく、初回から最終6回までをすべてフルオンラインで行うことができました。



委員会は全体実行委員会だけでなく、プログラム委員会・テクノロジー委員会・ホスト地域委員会(コロナ対策含む現地会場設営及び地域内広報)・サポート委員会(参加申し込み関連)等、複数の委員会から構成され、すべての委員会がZOOM・LINE・Slack等を使用しました。6ヶ月という準備期間にもかかわらず強い一体性を維持できたのは、皆でオンラインツールを使い必要な情報やデータを共有できたことが大きな要因だと思います。

フォーラムの開催は2日間ですが、開催前日にオンライン用の器材等の設営とリハーサルのために、多くのメンバーが会場に集まりました。いろいろな作業をひとつひとつクリアしていく中で思い出したのは「地方圏フォーラムはサービスのラウンドアップだ」という言葉でした。何度か経験しているラウンドアップ(主に地域主催で行われるメンバーの分かち合い)の実行委員会は、これほど大きなものではありませんが、その前日の緊張感とメンバー同士のフェロウシップの喜びは、ミーティングで感じる一体感とはまた違う、サービス(AAのサービスとは、まだ苦しんでいる仲間、私たちが原則に基づいた方法で手を差し伸べることに役立つすべてを指す。『AA成年に達する』213頁より)というプログラムならではの喜びなのだと思います。皆のテンションが一様に高めで、一つの会場で顔を付き合わせてサービスを分かち合えることを楽しんでいました。もっと気楽に、新しい人たちにもサービスを楽しんで欲しい。ラウンドアップのように、このフォーラムの目的を改めて噛みしめていました。

この地方圏フォーラムの目的の一つに「常任理事会・JSOスタッフとの交流」があります。特にJSOスタッフは常日頃AA日本のために働いてくれているのですが、なかなか仲間とふれあう機会がないのが現状です。今回は少し長めのプランを立てて、JSOスタッフの話とQ&Aを行うことができたことは、大変意味のあることでしたし、今後もプログラムの中に盛り込んでいきたいと思っています。

また、A 類常任理事のお二人もオンラインで参加しましたので、参加したメンバーはヒトナリを知ることができました。お二人からは今後のAA活動に活かす提言、大変意味深いお話がありました。

当日の会場はとてもパワフルでした。全国より集まった「サービスという蜂にさされた」(ちょっと言い方が古い)仲間たちが集い、画面上でしか会えなかったフラストレーションを晴らすかのように話し、聞き、笑い、プログラムを楽しんで分かち合っている姿を見て、ハイブリッドにして良かったと心から思いました。もちろんコロナ対策はがっちりした上での分かち合いであったこともお伝えします。

オンラインでの分かち合いで特筆すべきこととして、音響効果の素晴らしさと画面転換の速さと正確さがあります。これは多くのメンバーからの感想としても聞かれ、改めてテクノロジー委員会の皆様に感謝を申し上げます。委員会内での分かち合いもとても良いものであったと感じています。

今回、全体チェアマンとしてこのフォーラムを作り上げていく仲間に入れたことは、とても幸運なことだったと思っています。めぐり合わせ、ハイヤーパワーの配慮に感謝します。そしてこの「第1回東日本圏ゼネラルサービスフォーラム」が、これからのAA日本のサービス活動が活性化する一助になることを願っています。

■第1回AA東日本圏ゼネラルサービスフォーラムを終えて

～AAの一体性を肌で感じる事ができました～

-+-+-~+-*~+-*~+-*~+-*~+-*~+-*~+-*~+-*~+-*~+-*~+-*~+-*~+-*~+-*~+-*

東北地域2022年後期評議員 阿部

私が初めて代議員として地域集會に参加したのは2015年でした。その頃から東北地域はサービスの担い手の確保に苦労していました。当時は地域の棚卸し(AAの12のステップにある4番目と5番目のステップ)が控えていて、その実行委員長を募集中でした。自分が委員長になって少しでも委員会が回るのであればと思い、名前を貸す感覚でやらせていただきました。それが私のゼネラルサービスへの入口でした。その後、2018~19年に地区委員を経て、2021~22年に評議員をさせていただいたのですが、依然として評議員を含めた役割の選出に苦労している状態は続きました。コロナ禍が追い打ちをかけたのかどうかは分かりませんが、少ない人数で多くの役割を事実上兼任したり、同じ人が何年も委員長を継続しなければならぬ状態になったりと、限界を感じる場面も増えてきました。そんな最中、東日本圏でのゼネラルサービスフォーラム開催が決まりました。ただ、東北地域ではメンバーが少ない、参加する代議員が非常に少ないこの状況ではホスト地域はできないという結論に達しました。

そのような状態で迎えた第1回AA東日本圏ゼネラルサービスフォーラムですが、結論からいうと、永らく東北地域や地域内の地区でできていなかった、代議員オリエンテーションを、常任理事会が

代わりに開催していただいたように感じました。自分たちではできなかったことが進んでいるという「確かな真実」をここでも感じる事ができました。実際私のもとにも、「おかげさまで僕もゼネラルサービスに興味を持つようになりました」とか「オンラインでこれほど会場の臨場感が伝わってきたイベントは初めてだったよ」など多くの嬉しい声をいただきました。ハイブリッド開催のイベントとしても、サービスフォーラムとしても、最高の出来栄だと感じました。会場の設置、PC、カメラ、マイクの絶妙な設置加減も大変勉強になりました。

プログラムの中身に関して言えば、評議員と常任理事による「バスケットQ&A」。参加者から突然出される質問に答えていくのですが、私も含め、評議員同士が楽しく仲良く取り組むことができました。評議員が答えられない質問や足りない部分は常任理事がバシッと答えてくれました。そんなやり取りは、お互いの圧倒的な信頼感があってこそなのだと思います。

そして、個人的な話にはなりますが、私はこれまで北海道に行ったことがありませんでした。だから、知っている北海道の仲間も片手ほどしかいませんでした。「北海道のAAってどんな雰囲気なのだろう」とか「どんな仲間がいるのだろうか」とか、そういう期待と不安が入り混じりながら現地へ向かいました。

実際行ってみて感じたのは、遠く離れた場所でも、皆が和気藹々(わきあいあい)と準備に取り組んでいて、すごく楽しそうだったし、地域性や気候の違いはあるけれど、どこ行ってもみんな同じAAのプログラムをやっているのだと感じることができました。

私が出席した評議員会は結局2年間オンラインで終わりましたが、ほとんどの評議員仲間と残り任期2か月ほどで直接会うことができ、それもまたより一層の一体感を感じさせてくれました。評議員同士で、お互い大変さ、悩みも分かち合って、今後、お互いの方向性などを前向きに分かち合うことができました。

私は良い評議員仲間や理事に恵まれ、最良の時期に評議員をさせていただくことができたと思います。まだ、リアルで会うことができている評議員仲間やこのフォーラムの実行委員の仲間もいますが、これから何年かかけて会いにいきたいと思います。

極めつけはなんと、2週間後の東北地域集會にて、新しい評議員、議長が選出されたのです！新しく評議員に選出された仲間は、私と一緒に当日会場に行った仲間でした。評議員に立候補する気配は直前まで感じられなかったのが、これには私もたいへん驚いております。

さて、2020年第25回評議員会で決まりました「常任理事会は以下①②を目的としたフォーラムを定期的で開催する。①意見や経験の分かち合いを促進することにより、メンバーやグループ、そして地域を超えた地方圏の中に 一体性を醸成することができるよう、メンバーたちが適正なAAについて話し合える機会を提供する。②メンバーが、ゼネラルサービス(常任理事会やJSO)に関する適正な

情報を得られるよう(常任理事会やJSOのスタッフがメンバーと直接関わりながらサービス機構全体を通して活動できるよう)情報提供と分かち合いを行う」は、見事に達成できたと思います。アメリカ・カナダのPRAASA (Pacific Region Alcoholics Anonymous Service Assembly「AA 太平洋地方サービス集会」)を、日本の風土に合わせた形での再現、大成功ではないでしょうか。今後、メンバー数が少なかったり、サービスが一部の仲間に集中している状況は、ビッグブックの122ページにある「霊的な状態をきちんと維持」していく必要があるのだと思います。これを絶やさないように続けていきたいし、新しい仲間にも経験してほしいと思います。

サービスに関わってくれる仲間を増やすためには、イベントを行うことがいかに効果的か、改めて実感しました。東北地域でもラウンドアップなどのイベントが再開できればと思いました。そういったイベントもまた、サービスへつながるきっかけとして重要な意味があると考えています。

最後に、今回、地域の地区委員や多くの仲間が実行委員として参加していただきました。心より感謝申し上げます。今回のフォーラムを定期的で開催していくことで、地域評議員が絶えず 2 人選出できるようになることを願ってやみません。ありがとうございました。

■第 27 回ワールドサービス・ミーティング参加報告

「デジタル時代に A.A のメッセージを運ぶ」

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

WSM(前期)評議員 大迫

2022 年 10 月 1 日～6 日、第 27 回ワールドサービス・ミーティング(略称 WSM)がオンライン開催されました。参加は 49 ヶ国、各国の代表である WSM 評議員 72 名が集いました。日本からは WSM 後期評議員グルーディ氏と私が参加しましたのでご報告します。

今回の WSM のテーマは「デジタル時代に A.A. のメッセージを運ぶ」(“Carrying the message of A.A. in the Digital Age”)

近年のテクノロジーの進歩は急速です。特に高速インターネット回線とスマートフォンの出現以降、新たなデジタルサービスやツールが次々と出現しています。2020 年 3 月の新型コロナウイルス(COVID-19)パンデミック以降、外出自粛や制限など行動が制限されるなか、AA においてもミーティングやサービス活動の継続のためオンライン会議ツールやインターネットを介した活用が広がりました。現在そしてこれから現れる多くのアルコール依存に苦しむ人達に AA の回復と希望のメッセージをどのような方法で届けるのが効果的なのでしょう。各国から Web サイト、電子書籍や SNS、YouTube などデジタルツールを活用した新たな取り組みの成功や失敗の経験、アルコール本人や専門家や関係者へのアプロー



チ、一般社会への広報の方法、オンライングループをどのようにサービス機構に取り込むのか、そして私たちのアノニシティ(無名性)や普遍的な原理、今後の WSM の課題や展望について、プレゼンテーションやワークショップなど 6 日間を通して多くの分かち合いが行われました。

私も『デジタルプラットフォームにおける AA 出版物』というプレゼンテーションと、『カントリーハイライト』というこの 2 年間の日本の AA のトピックについて、(猛練習のおかげで)苦手な英語でスピーチさせていただくという貴重な経験もさせていただきました。

WSM と 2 度目のオンライン開催について: WSM は 1967 年 AA の共同創設者ビル.W が WSM 構想を北米の常任理事会に提案したことに端を発します。北米と各国 AA の賛同を得て 1969 年に第 1 回 WSM が開催されて以来、WSM は世界の AA の発展に関連する幅広い問題とニーズに応えるため、経験とアイデアを交換する国際的なフォーラムとして機能しています。WSM は 2 年ごとに過去 26 回開催されており、場所はニューヨークと他の国の間で交互に開催されます。ニューヨーク以外ではこれまでに、イギリス、フィンランド、メキシコ、グアテマラ、ドイツ、コロンビア、ニュージーランド、スペイン、アイルランド、ポーランド、南アフリカの 11 ヶ国で開催されてきました。

今回の WSM は実は前回の WSM の中で複数立候補国の中から投票によりアジア初として日本での開催が決まっていた。しかし残念ながら新型コロナウイルス(COVID-19)パンデミックの影響で、2020 年の第 26 回 WSM に続き 2 回目となる Web 会議ツール Zoom を使ったフルオンライン開催となりました。6 日間の開催時間帯は、ニューヨークの時間で朝 7:00～13:30 までの 5 時間半でした

前回はオンライン開催の準備期間が短く 3 日間で時間も短縮となりましたが、今回は通常の開催とほぼ変わらないプログラムとなりました。時差があるため、各国様々な時間帯となりますが、日本時間では夜 20:00 から深夜 2:30 迄でした。

私は東京在住の平日勤務の会社員のため、上司の快諾のもと開催期間に合わせ月曜から金曜まで丸 5 日間休暇をとり、WSM 評議員グルーディ氏がお住まいの近くのビジネスホテルに宿泊し、毎晩グルーディ氏のお宅に通い、並んだ机でそれぞれ PC に向かい WSM に参加しました。夜中 3 時近く会議が終了後も、元北米 AA 評議員の豊富な活動と過去に長年日本の通訳として頂き数多くの WSM に参加経験をお持ちのグルーディ氏に気になったことをお聞きし、空が明るむ頃にホテルの部屋に帰って寝て、昼すぎに起きて会議の準備をするという日々でした。

WSM の公用語は英語とスペイン語となっており、この 2 言語間の通訳は WSM 経費で用意されています。英語とスペイン語のどちらも話せない代表者を選出した場合、その国は自分で通訳を手配する必要があります。日本では、1998 年以降は 2008 年を除いてボラ

ンティアの英語通訳者を同伴して参加しています。今回は私のために3名のメンバーが交代で通訳をしてくれ心より感謝しています。Zoomの通訳機能が使え遠隔でもスムーズでした。私以外でも数カ国の方がその国の通訳を同伴していました。

感じたこと: 今まで知らなかった他国の経験や取り組み、分かち合いはとても興味深く、参考になることや情報量も多く、メモをしても頭の整理が追いつかないくらい充実した毎日でした。ただし画面の向こうの各国の方と一緒に食事をしたり休憩時間に雑談をして笑いあったり個別に詳しくお話を聞くことができないもどかしさは参加者の皆も感じていたようで、6日目の最後のプログラムでは後期WSM評議員一人一人からお別れの挨拶があるのですが、任期中の2回のWSMが両方ともオンラインとなってしまった後期評議員のスピーチでは、やはり握手やハグをしたかったということや、次回からはまた現地開催してほしいという声が多く聞かれました。

閉会時には、参加WSM評議員が使っている28言語で順番に「平安の祈り」が唱和されました。祈りが終わったあと司会者が「今、ここに私たちがいて、多くの言語で祈りがされた意味を考えてください」といって少しの黙想の時間がありました。胸に暖かい感情がこみあげてきて、世界各国から同じ目的で集まっていることに確かな一体性を感じました。

最後に: 日本のメンバーの皆様には来年は日本での評議会を皮切りに、全地域でWSM報告会を開催させていただく予定です。楽しみにして頂ければと思います。

また、WSM開催には1969年の第1回開催からニューヨークにあるアメリカ・カナダGSO(ゼネラルサービスオフィス)が大きな役割を果たしてくれており、彼らの人的貢献および金銭的支援なしにWSM開催は事実上困難でまだメンバーも少なく資金難の国の参加も難しいことが現状です。今回はオンラインであったため各国からの参加費と2018年に設立されたWSM基金で賄えた初めてのWSMとなりましたが、将来的なWSMの経済的な自立のためには、伝統7に基づいた各国からの献金が必要となります。

日本のメンバー皆さまからお預かりした国際協力献金は、これからAAが発展する国々のための国際出版基金やWSM基金、2023年に開催されるAOSM(アジアオセアニアサービスミーティング)参加経費や国際協力活動に大切に使用させていただきます。国際協力献金は通年JSOで受け付けております。

■日本のAAを振り返るフォーラムと

振り返りミーティング(オールドタイマーはこう思う)の開催案内

-+--+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*

企画担当B類常任理事 今井

常任理事会の委員会のひとつにアーカイブ委員会があります。アーカイブ委員会は「真理が我々を自由にする」という確信をもって、「正しい情報を知ること・正しく過去を振り返り未来へ向かう」を念頭に「アルコールクス・アノニマスの活動を永続的に記録すること、A.A.メンバーやその他の研究者が私たちの歴史にアクセスできるようにすること、A.A.の成長、原理、伝統を理解するための背景を提供すること」を目的に、オールドタイマーへのインタビューや保管された過去のイベントや書籍等の整理、保管方法等の規約作成を行っています。

日本のAAを振り返るフォーラムは、第26回評議会「常任理事会は、AA日本50周年に向けて「日本のAAを振り返るフォーラム」を計画し、次回評議会に提案する」が決まり、この実現に向けアーカイブ委員会が担当することとなりました。委員会では開催に向け実行委員会を立ち上げ、50周年記念集会を含め3回のフォーラム開催を計画しています。

第1回:3月26日福島県郡山市で開催。(オンライン聴講あり)

第2回:2024年3月開催予定。(場所未定)

第3回:2025年3月28~30日AA日本50周年記念集会にて

このフォーラムでは、「AA日本の50周年の節目に、恐れることなく過去を正確に振り返ることで、共同体の歩みへの感謝を深め、未来に向けて進んでいく」ことを目的に、魅力あるプログラムでAAメンバーに楽しんでいただけるよう情熱をもって取り組んでいます。(詳細はチラシ等でご案内をいたします。)

振り返りミーティング(オールドタイマーはこう思う)は、このフォーラムに向けた分かち合いを目的として今年8月から月に1回(第4日曜日17時~18時半)フルオンラインで行っているスピーカーミーティングです。ミーティングではオールドタイマーを招き、彼らの経験と力と希望を語っていただいています。彼らの分かち合いを通してAAへの変わることのない愛情と情熱を感じ、また、私たちがどのようにして今日に至っているのかをより深く知る宝石のような時間を体験しています。

AAメンバーの皆さま、機会がありましたら是非ご参加くださいますようよろしくお願いいたします。

編集：ニューズレター編集委員会・発行：NPO法人AA日本ゼネラルサービス

〒171-0014 東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月~金)10:00~18:00 (土・日・祝)休